

最近雑誌事情 マネー雑誌

日本経済の全部を把握し、将来を予測するのは専門家に任せておくとしても、今年に入って三度目の公定歩合の引き下げはどうしてか。円高差益還元で一時的にしても電気・ガス料金はいくら安くなるだろう。とこれくらいは考える。けれど私は所詮その程度どまりである。

しかし今、マスコミの報道ばかりでなく、より正確な情報を求め、積極的に資産運用をしている人が増えている。そして、情報提供のお手伝いをしようという雑誌も同時に大流行りのようである。数あるマネー雑誌の中からいくつかをあげてみた。

まずブームに火をつけたといわれるのは、八五年五月創刊の「マネー・ジャパン」(七月号)。アメリカのタイム社との提携で西武タイムから発行。続いて日本経済新聞社から「日経マネー」が八五年十月に創刊される。(十一月号)業界紙(情報春秋八六年二月二十五号)評によれば、この二誌を写真雑誌のF・F戦争に対し、M・M戦争と呼ぶ人もいる程とか。部数、他誌への影響もさることながら、二誌間の競争がしのぎを削っている感もある。

発行部数でみてゆくと「マネー・ジャパン」は、創刊号の二十二万八千部を見事に完売。昨年暮れに発売された新年号は三十万五千部。今年に入ってもそのまま推移していると、出版社

側。一方の「日経マネー」も創刊以後部数を伸ばし、こちらも三十万部台にのせる成長を見せている。今の調子なら五十万部も時間の問題という。更には「マネー・ジャパン」創刊号の巻末にある、編集者からの手紙には「米國MONKEY誌のように、一五〇万部の大雑誌になることを祈念しながら。」とあるから目標は高いのである。

M・M誌の他には、若手サラリーマンを対象にした学習研究社の「ドリブ」がある。編集長交替を機に「女と金で部数倍増」を計り、発行部数は四十万。その「ドリブ」よりやや年齢が上、四十代男女が読者の中心という「ハンター」は、ろまん書房から八五年八月に創刊、現在の部数は十二万。

雑誌名を列挙していくだけでも興味はつきないが、実際にどんな利殖プランがあり、金融商品が並んでいるのか創刊号の目次を主に見てみると、すごい。大変な量である。どうやら普通に

働き、節約なんぞしていても到底お金は残らないナ、とため息が出そうになる。そう思ったらまず自分に合った方法で試してみるのがよい。ひとつぐらいいは見つかるはずだ。

たとえば、うんと身近な預貯金、趣味的に貯めている(?)日本人のための商品案内と制度の今後と対策、さけては通れない年金問題・老後設計、国内外の債券・株式、外貨。マイホームを含む不動産やローンの組み方色々、マネーのマネーまで。

手段は違えど目的はほぼ同じ、うまくゆくとリッチマンにもなれるのだから始めたらそう簡単にはやめられまい。(必要があり切羽詰った気持ちで読んでいる読者には不謹慎だとおしかりを受けるかな)流行を先取りするファッション雑誌や、成人病を心配しだす人などへ健康雑誌が売れている理由とはまた違った性質のモノだから。

ではどうしてマネー雑誌がこんなに売れ、又伸びてゆくのか。詮索はあまり必要としないだろうし、してみたところではよくは解らない。ただいえそうなのは、お金に対する考え方が変わってきている、ショッピング感覚でお金の運用もする。加えて女性がお金を持ったし、運用にも目ざめてきた。一種の流行にもなっている気がする。

いずれにしても、必要とする情報がわかりやすく身近なモノになるということとは、とてもすばらしいことである。中流意識がまたワンランクアップしそうで怖い気もする。(S・S)

大宅壮一エピソード集⑤

大宅壮一の初恋は、汽車通学の中で芽生えた。京都の三高へ通っている頃、毎朝同じ車両の、しかも必ず目の前の座席へ座る女学生がいた。その頃は、一時間に一本ぐらいしか汽車がなく、「通学列車」の中で三十分以上は面と向かい合っていく。

そのうち、いつのまにか彼女を意識するようになり、本を読んでいても、同じページの上をいったりきたり。たまたま彼女の姿が見えなかった時は、病気にでもなったのではないかと気になってその日は何となく物足りなかった。それでも、彼女と口を聞く勇氣はなく、名前も知らなかった。

ところがある日、妙な手紙がやってきた。差出人の名のない、何度読みかえしても意味の通じない物である。その手紙は縦書きで、しかも左から右に向かって書いてあり、他の人に渡った時の為にカモフラージュがしてあった。内容は、明らかにラブ・レターであり音楽会の日時が指定してある。その後で、初のランデブーを行うというコナンテンである。大宅壮一は、生まれて初めてのアバンチュールの期待に胸のときめきを覚えたが、しかしその日は一高と三高の連合弁論大会があつてどうしてもその音楽会には行けなかった。それっきり彼女は、大宅壮一の前には姿をあらわさなくなった。大正時代の初恋である。『キング・昭30:8』(K)